

スキップ

No.6

2010年5月17日

J R 東海労働組合

職場問題シリーズ⑥

知識確認は苦痛ではないですか？ 仕事が手につかない状態では？

GW輸送も終わり、薫風すがしく一年でいちばん良い季節の5月ですが、乗務員の皆さんには、知識確認で、一年でいちばん憂鬱で嫌な5月を迎えています。新幹線・在来線の運転士・車掌、車両所の構内操縦者がその対象で、職場では「落ちたら嫌だな」「毎年毎年苦痛だな」「問題が難しすぎて、もう少しやさしい問題にならないのかな」などの声が聞こえてきています。また「乗務先の宿泊地で一睡もせず覚えた」という社員もおり、精神的に大きな負担になっています。これでは、通常の業務も手につかない状態です。今年もすでに、20名以上の社員が1回目でも不合格になったという職場もあるといえます。

省令に基づいた試験？ JR他社は？

会社は省令に基づき、行っているものであるといっていますが、70点以上でないとは不合格だという基準はどこにもありません。また、不合格者は2回まで追試験を受けることができ、それでも不合格の場合は、「日勤教育」を受けて最後の試験に臨み、それでも不合格の場合は他職へ転勤となります。聞くところによると、JR東日本もJR西日本もこのような要領での試験はやっていないそうです。毎月の定例訓練での知悉度テストくらいだそうです。

乗務員の皆さん！知識確認の改善を訴えよう！

膨大な範囲から記述式、○×、「虫食い」問題。試験一般を否定するわけではありませんが、車両説明書を隅々まで読み込まなければ解けないような試験が、果たして知識の確認といえるのでしょうか？すべての乗務員の皆さん、試験勉強的に覚え込んだ知識と、身体で身につけた知識とでは、どちらが実践的で異常時に役立つのか今一度考えてみませんか？

爽やかな5月は嫌いな5月！